



2011年3月13日

# いま起きつつあること…

日本は今年で13年連續、3万人を超える自殺者を生み出してきた自殺大国です。国は長年、自殺を「個人の問題」として、関わることを避けきました。しかし最近では、市民団体の活動も活発になり、自殺を「社会の問題」とし、さらに自殺は追い込まれた末の死であり、「防ぐ」とのできる死である、と考へられるようになつてきました。

NHKで今回考えてみたいのは、自殺と教会の責任です。教会は古くから自殺を罪とし、断罪してきました。また、そ

自殺大国日本で

教師は  
“自殺”で死  
う闇わぬか

の一方で自殺を悼み悲しんだイギリスの牧師が始めた「いのちの電話」が日本でも広まっています。

今教会は、いや私たちは自殺という問題にどうのよろに闇わぬことができるでしょうか？  
そこで、私が2010年の7月に訪れた、白浜バプテスト教会の働きを紹介します

白浜バプテスト教会  
の働き

和歌山県西牟婁郡由良町には、断崖絶壁の名勝として知られる三段壁があります。壁下の海流が早く、浮き上がるのが困難なため、古くから自殺の名所とされてきました。大阪からわざわざ一日かけて歩いて来る人もいるほどです。一九〇〇年に先代の江見太郎牧師が白浜いのちの電話を開始し、自殺者救済に乗り出しました。そして一九〇〇年の年に藤敷庸一牧師に引き継がれ、2005年にNPO法人「白

生きるの」とせ  
ひとつじばじめなこ

またこの教会には子どもたちのためのプログラムも多めあります。それは、子どもの時から生まれる孤独など、殺の芽を早いうちから取るためです。

り、家族が迎えに来たりします。他の人はその日から教会で、自立を目指して共同生活を始めます。就職や自己破産など具体的な支援と同時に心と体のケアを行います。

活動、「自立支援活動」、「殺予防活動」です。

浜レスキューネットワークとして活動を開始しました。この活動は、大きく分けて3つあります。「自殺者救済

ました。「誰でもいいから助けてほしかった」「水一杯でいいからほしかった」と、私よりも3倍も4倍も長く生きている人たちが助けを求めていました。

彼らには、イエスさまが必要だと思いました。しかし、その前に、人が必要だと思いました。「死ぬ」とはひとりでできる。しかし生きることはひとりではできない」（林田茂男『自殺論』三一書房）。人には人が必要です。私は、神さまの愛は人と人の間で現れると思います。

今日もどこかで約100人の人が尊い命を落としています。「ちえまた人身事故か、あーあ電車が遅れちゃう」そういう思つてている人たちの背後で、今日も孤独な命が忘れ去られています。神さまの愛を知っている私たちは、彼らの隣人になることができるのではないでしょうか?